

12月のスキゴト

12月8日(土) 「自然はともだち! 森の恵みを使ったクリスマスツリー」

Beautiful! Wonderful! 飯能から4年続きで来てくれた3人のサンタクロース(“森林インストラクター”の資格を持つ「きまま工房・木楽里」の鴨下智子さんと男性二人)

そのアイデア、準備、子供たちへの指導、いずれもBeautiful! Wonderful! でした。

準備、持参して下さった、杉の木、ヒノキの葉、数多くの木の実(ヒマラヤスギ、フウ、メタセコイヤ、松ボックリ、ドングリ、トチ、ピラカンサ、ブルーベリー、カラスウリ etc)に子供たちは目を見張りましたね。

さあ、実行です。ダンボール紙の全面に、両面接着テープを貼り、その上にヒノキの葉を張りつけ、5、6センチの高さに切った杉の木(直径7~8センチ。この木から年輪13年を学んだ。小学生のみんなより先に生まれた木なんだ)を土台にしてさしこんで立ち上げるとハイ!クリスマスツリー!これに木の実や「いずみ」が用意した多種の飾りをグルーガン(固形棒のプラスチックをピストル状の器具に入れ、電気の熱で溶かして押し出し接着するものなり)で接着していく。この間、作業に入ってからの子供たちのなんと静かなこと!!「シーン」活き活きした真剣な表情。まったく声を発することなし。黙々と必死に取り組んだ2時間。作品の出来栄も素晴らしかったが、みんなの懸命な態度、これぞまさしくNice children. Wonderful! My Christmas Tree完成の半日でした。(ボランティアI・S記)



11月10日(土) 飾って遊べる「お手玉作り」～「ペレット」ってなあに?～

「お手玉」は日本の伝統的な「遊び」の一つ。遊びながら両手を使い、頭も、運動神経も、反射神経も働かせる勝れもの。老化防止にも、子どもたちの能力アップにも貢献出来ると、今、見直されています。その「お手玉」を、古布を利用して作りました。一つは「ねこ型」。参加者が持参した様々な古布から、可愛い「ねこ」がつつぎと出来上がり、机の上に並べられました。次に昔ながらの「座布団型」。ちょっと難しい縫い方も、なんとか工夫して、完成。



縫いあがったばかりの「お手玉」を使っての「遊び」は、先生の見事な技に驚きの声。最後は大きな声で「あんたがたどこさ」を歌いながら、楽しく「お手玉遊び」をしました。

「お手玉」の中は、「古い小豆」や「数珠玉」の代わりに「ペットボトル」をリサイクルする為の原料となる「再生ペレット」を入れました。

家でも作れるように「再生ペレット」のお土産を持ち帰り、小雨の中、無事講座を終えました。

(R・T)

